

令和5年 2月 吉日

「子ども家庭支援センターみらい」保護者各位

子ども家庭支援センターみらい
園長 長友 美保

「児童発達支援事業所自己評価」（保護者向け）の結果について（報告）

向春の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所に通園している保護者の皆様のご協力のもと、保護者による自己評価を過日実施いたしました。

結果を基に自己評価の項目一つ一つを見直し、取り組みの現状、そして今後の在り方を考える機会となりました。

昨年度に引き続き、保護者からの評価につきましては、多くの項目で概ね高い評価をいただきました。日頃から、親の会と共に運営面、実践面を共有し、よりよい支援の場を目指して取り組んできている現状が評価へとつながっていると考えられます。

「9. 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか」に「どちらともいえない」「わからない」「いいえ」と答えている方がいらっしゃいました。本事業所は主に保育所、認定こども園、幼稚園との併行通園児の療育活動を実施しており、現在も8割の園児が併行通園を行っています。そのため、日常的に地域の園に通園している現状があることから、事業所の取り組みとしては、同法人内にある保育園との交流のみとなっています（但し、子どもの実態に応じて交流の必要性がある場合は併行通園先との交流を実施しています）。この項目は昨年度も「わからない」と答えた方が数名いたため、入園時説明会やみらいカフェ（親の会運営委員会）の中で丁寧に伝えていきたいと思っております。

また、「19. 個人情報の取り扱いに十分注意されているか」に「わからない」と答えた方が数名いました。このことは、保護者にとってとても気になることだと思います。事業所がどのように取り扱っているか、管理しているかの周知に努めていきます。

今後も、事業所への要望や意見等を寄せていただく中で、よりよい事業所へと発展していけるように精一杯努力していきたいと思っております。そして、ひとりひとりのねがいを大事にできる療育実践をつくり続けていきます。

これからも、どうぞ宜しくお願い致します。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

【児童発達支援】

公表:令和 5年 2月 1日

事業所名:子ども家庭支援センターみらい

保護者等数(児童数) 18(19) 回収数 18 割合100 %

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18				遊んだり、走ったり出来る十分なスペースが確保できている。	基準以上のスペースを確保して活動をしています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	18				職員の専門性は適切で子どもたちに対応されている。	法令に従った職員数を配置していません。専門性を高めていけるように、学習や研究に取り組む努力をしています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	15	2		1	駐車場裏からみらいに上がる時に階段しかない。スロープはないので、車イスの人は上がれないのでは。	駐車場裏からは建物の構造上階段のみになっていますが、車いすの方は事業所表玄関側より、車で入るようにしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	17	1			部屋が目的別にわけられている。	子どもたちの状況に応じて、生活の場、遊びの場づくりを心がけています。よりよい環境づくりに今後も努めていきます。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	17	1			作成されている。	定期的に支援会議を開催しながら、育ちの確認を行っています。今後も子どもと保護者のニーズや課題が反映された計画作成に努めていきます。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	16			2	具体的な支援内容が設定されている。	できるだけ、わかりやすく、具体的な支援内容を心がけながら、個別面談の際は、わかりやすい説明を心がけていきます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17	1			適切な支援が行われている。	児童発達支援管理責任者を中心に、計画に沿った支援の提供に努めています。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	16	1		1	個々に合わせ工夫されている。	子どもの発達に応じた活動づくりを心がけています。活動の意味やどんな力を育む活動であるかを今後もできるだけ丁寧に伝えていきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	9	4	2	3	無いのではないかと幼稚園に通園している。コロナ渦で交流が難しいように思われる。	併行通園児が過半数の事業所です。法人内の保育園と人形劇鑑賞等で交流を図っています。コロナの状況、子どもたちの実態に応じて今後も対応していきます。
保護者への説明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17			1	説明して下さっている。	入園時に説明をしています。玄関に運営規定等の掲示はしていますので、いつでも見聞かできます。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	16			1	説明されている。	できるだけ、わかりやすく支援内容の説明を心がけています。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	15			3		みらいカフェ、保護者学習会等で保護者同士の学び合いの場を引き続き実施していきます。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	18					今後も療育での姿、家庭での姿、各幼稚園、保育園での姿をしっかりと把握し、子どもの「今」を見つめ、共通理解のもとに支援を行っていきます。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18				育児に関する助言をいただいている。	定期的な面談以外にも、気軽に相談できる場、職員でありたいと思っています。今年度は、保護者の皆さんが自ら相談して下さることやお手紙を頂くことも多く、一緒に考えていくことができ有難く思っています。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	18				保護者同士連携できている。	今年度はコロナのために、制限されることはあったものの、交流会や行事を通して、とてもよい保護者会となっています。引き続き保護者会からの要望も出しているなかから、事業所としてできる限りのサポートを行っています。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	18				相談しやすい環境である	今後も、出来るだけ迅速に対応していきます。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18				配慮されている。	よりよい関係を構築しながら、努めていきます。
18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	17				1	発信されている。HPでの発信はまだ進んでいない。紙面によるものだが、行事予定等は伝えられている。	定期的な会報の実施、自己評価のHP掲載等を実施しています。HP掲載についてはわからない方が1名いるため、保護者会や毎月の会報の中でも繰り返し伝えるようにします。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	16			2		引き続き、個人情報の取扱いには十分注意して取り扱っていきます。また、説明も行っていきたいと思ます。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
非常時等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	16			2	あるかもしれないが、知りません。	各マニュアルは作成し、掲示しています。今年度は感染症対応の中にコロナ感染が加わっています。できるだけ様々な状況を想定した訓練を実施し、備えていきたいと思っています。そして、発信していきたいと思っています。
	21	非常災害の発生に備え、定期的避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16			2		法令に従って訓練を開催しています。災害時の送迎訓練では保護者の方にもご協力を頂き感謝しています。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	18				とても楽しみにしている。 お友達や先生の名前がよくでくこと、「明日の〇〇するんだ」と発言がみられることから楽しみにしていると思われる。 休みの間も「早くみらい行きたい」「〇〇先生に会いたい」というくらいすごく楽しみにしています。 実践内容が充実しており、とても楽しみに通所している。	子どもたちにとって安心できる場、楽しい場となっているという声に喜びを感じています。 今後もそのような場であり続けていけるように、子どもの願いを大切にしたい療育実践をつくっていきます。
	23	事業所の支援に満足しているか	18				とても満足しています。 先生方が一生懸命で満足しています。 安心して預けています。 いつでも相談しやすい環境のおかげで、親の私たちも不安や迷いを放置せず一緒に考えながら乗り越えていける。 みらいがあつて本当によかった。 個人についても細やかな配慮があり有難い。	今後も、子どもたちにとっても、保護者にとっても、満足して頂ける支援に努めていきます。 子どもを真ん中に、保護者会、地域、職員がしっかりと手つなぎし、事業所がよりよく発展していくように、取り組んでいきます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

令和4年 2月 吉日

関係者各位

子ども家庭支援センターみらい
園長 長友 美保

「児童発達支援事業所自己評価」（事業所向け）の結果について（報告）

向春の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所における「児童発達支援事業所自己評価」について、自己評価を過日実施いたしました。

事業所における自己評価につきましては、非常時の対応『47：どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか』の項目「いいえ」について、本事業所としては、身体拘束を行うことは現状としてはありませんが、職員研修を実施し、身体拘束について考え、理解を深めていくように努めています。今後、やむを得ず身体拘束が必要となる場合は、検討を行った末に支援計画に記載し、保護者の了解を得て支援を行っていきます。

今回、自己評価の項目一つ一つを確認し、職員全員で意見交換を行いました。大切にしていかなければならないこと、工夫できることがないかを忌憚なく出し合う中で、本事業所の役割を考える機会にもなりました。

今年度は、保育現場での園バス置き去り事件、保育士による虐待事件が発生し、安心安全が守られているべき場所で起こった悲しい事件に、多くの方が心を痛めました。

尊い命を預かっている場であること、地域とのつながりを大事にしながら、子どもの発達支援、家族支援を担う場であることを念頭に置き、取り組みを進めていきたいと思いません。

今後も、皆様のご意見、ご協力を頂きながら、信頼される事業所であり続けられるよう努めてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表: 令和5年 2月 1日

事業所名:子ども家庭支援センターみらい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		法令に従って十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		法令に従った職員数を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		子どもの実態に応じてわかりやすい環境づくりを心がけ、子どもにとって過ごしやすい導線や空間を保障している。室内はバリアフリー・階段は手すりあり。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎日の清掃、消毒、定期的な安全点検を実施しており、安心、安全な環境づくり努めている。活動に応じた空間を確保することができるため、実態に即した環境を保障することができる。	安全点検の中で、梅雨の時期は湿気で廊下が滑りやすくなる日があるため、気づいた時ではなく、その時期は濡いた雑巾での事前の拭き取りや乾燥対策を講じていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		できるだけ話し合う時間を確保し、共通理解を図りながら職員全体で取り組んでいる。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		評価表、日常的な親の会との連携、意見箱、アンケート等の意見を受けとめ、すぐに対応する流れをつくっている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		毎年公開している。内容について、保護者に周知していくように努めている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		法人で定期的に行い、必要に応じて改善につなげていくよう努めている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		法人研修、外部研修の年間計画を立てて実施している。研修についてのアンケートを取ながら、出来るだけ学びの場を確保している。職員会議での学びの時間もつづけている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		児発管を中心に、相談支援、専門職、担当保育士等、発達課題を分析しながら計画作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		子どもの支援に必要な項目になっており、専門用語ではなく、できるだけわかりやすく、具体的な支援も目標、内容になるように心がけている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		支援計画に沿った支援についての共通理解に努め、定期的に児発管を中心に評価し、支援のあり方を協議している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		年間、月間、日案、行事等、担当職員を中心としながらチームで検討し、職員会議で提案し、作成している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		年間計画作成の中で、療育内容を検討しており、季節の行事、子どもの実態に応じた活動内容を工夫している。豊かな発達につながる活動をつくっている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		基本的には集団活動をベースにし個々の発達課題に即した個別の支援を行っている。集団活動、個別活動の発達課題は支援計画に反映している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援開始前には必ず打ち合わせを行っている(プログラムは早目に配布し、各自自分の役割や支援について考えた上で打ち合わせにのぞんでいる。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援終了後に反省会を行っているが、勤務時間上、参加できない職員がいる場合は文書でやりとりを行っている。	療育活動終了後に振り返りや打ち合わせを行っているが、毎月のクラス会議の回数を増やし、子ども理解、実践づくりの視点について深めていく。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		記録が出来事だけの記録とならないよう、支援のポイントや成果や課題が明確に記載されるように努めている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		支援計画にそって、現状を見ていく中で、見直しの必要性を問いながら進めている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的には児発管が出席しているが、ケースに応じて、クラス担当職員も同席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		必要な連携は事業所から関係機関に働きかけている。共通理解を図り、面談、家庭訪問、事業所訪問等を実施し、それぞれの立場での支援に努めている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			該当児なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			該当児なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		入園目の体験、連携会議、日常的な電話でのやりとりの中で、子どもの実態把握を行い、支援について出来る限り共通理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		各小学校への情報提供を行い、訪問し、直接会って担当者への引き継ぎを行っている。移行後も見学や必要な支援、連携に努めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		研修や公開療育等へできるだけ参加し、学びを深めている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		在園児の8割が併行通園児である。法人内の保育園は行事を通して交流の場をつくっている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		会議の知らせがあれば、参加できるように努めている。	自立支援協議会子ども部会の情報を積極的に得る。
保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		活動後の引き継ぎの際に、できるだけ具体的に伝える様に心がけている。気になることがあれば、別途面談時間を確保し、共通理解、解決に向けた話し合いを行っている。	働いている保護者の状況把握(保護者の状況・家庭での子どもの様子・子育ての中での困り事等)に力を入れる。働いている保護者に対して、限られた時間の中での具体的な聞き方や困り感を相談できる関係づくりを心がける。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		定期的に学習会、交流会を実施している。日常の困り感について集団で考え、とらえ方、関わり方を学びあっている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時にできるだけわかりやすい説明を心がけている。契約後も定期的に質問に答えている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		支援内容、支援計画についての説明の時間を設定し、保護者からの同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		定期的な面談、保健師面談の中で、様々な悩みを語る場をつくり、一緒に考え、解決へつなげていけるように努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		ひとりぼっちの子育てにならないよう、親の会の活動をサポートしている。事業所内だけでなく、県内の親の会、法人の家族連合会との連携も含めてサポートしている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談や申し入れについては、出来る限り迅速な対応を心がけている。事業所内で解決できない場合は訪印、関係機関、行政へつなぎ、できるだけ対応に遅れが生じないように努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		法人会報、事業所内おたより等、定期的に発信している。親の会(みらいカフェ)では療育活動のねらいや成果等について報告している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報の取り扱いについては契約時に説明し、同意を得ている。取扱いについては十分に注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		個々に応じて必要な支援を行い、よりよい関係を築きながら、必要な配慮や工夫を行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		行事への招待、療育活動中での関わり等、子どもたちが地域を感じる機会、地域の人に見守られていることを感じる機会を大事にしている。避難訓練等での連携も図っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各種マニュアルを作成している。災害時の送迎訓練を実施しているが、保護者自身が送迎ルートを考え、確認してもらう大事な訓練となっている。	
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年2回以上実施。日常の活動の中でも災害や避難について考える機会や絵本、映像を見て、より理解を深めていく活動を実施している。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		契約時のアセスメント等の中で確認している。年2回の園内健診でも確認し、必要に応じて医療との連携を図っている。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーについては医師の指示に基づき、保護者と確認し、対応している。不明確な場合は医療機関での検査を促している。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		朝の打ち合わせや毎月の会議の中で報告し、全職員で共有している。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		定期的に研修を行っている。基本的な学習、ケース検討等、早期発見や虐待防止、虐待を受けていた親についての学習を積み重ねている。今年度は職員のチェックリストを活用し、意識を高める学びを実施した。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○	身体拘束は行うことはありません。身体拘束についての学習会は実施しており、どのようなことであるかを周知している。身体拘束が必要なケースに直面した場合は、了解を得た上で支援計画に記載し、適切な支援を行います。	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)